

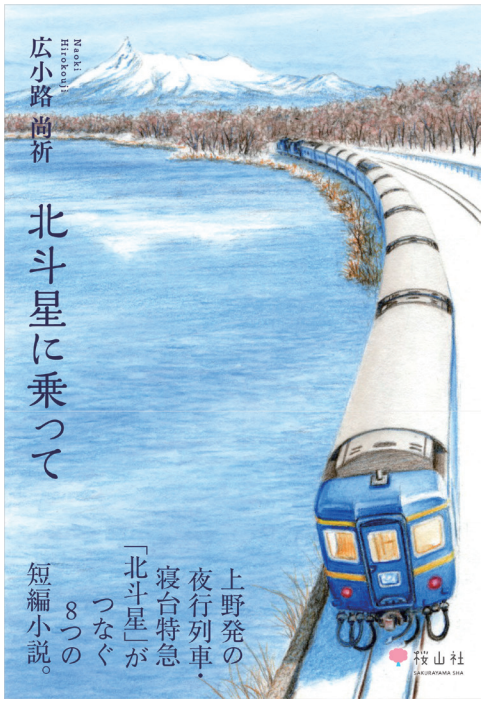
注文出荷制
特集&PICKUP
FAX0120-999-660

文芸・エッセイ ご担当者様 好評既刊本のご案内

北斗星に乗って

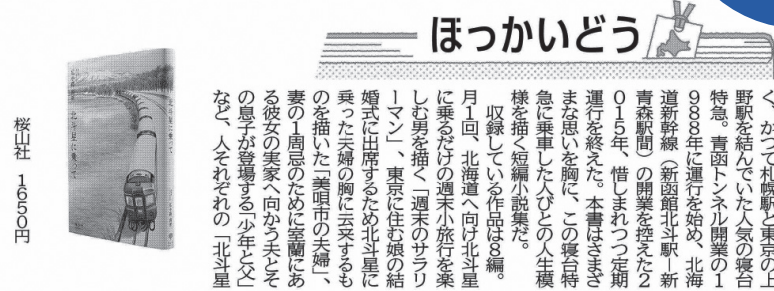
金曜日は残業禁止という規則ができてから、僕は月に一度く
らいのペースで、上野駅の13番線ホームに立っている。19
時03分発の北斗星、札幌行きー。上野発の夜行列車・寝
台特急「北斗星」がつなぐ8つの書き下ろし短編小説。青く
美しいこの列車は、僕をもう一つの世界へ運んでくれる。

「北海道新聞」
書評掲載！
「中日新聞」
著者インタビュー
他続々
掲載予定！



カバー画:北の大地「函館～森間」を颯爽と走る寝台特急「北斗星」
装画:『「北斗星」乗車456回の記録』
(小学館新書／鈴木周作著)

著者略歴 広小路 尚祈(ひろこうじ なおき)
1972年、愛知県岡崎市に生まれる。高校卒業後、ホテル従業員、清掃作業員、タクシー運転手、不動産業、消費者金融など、10種類以上の職種を経験する。2007年、「だだだな町、ぐぐぐなれ」が第50回群像新人文芸賞優秀作に選ばれた。2010年、「うちに帰ろう」が第143回芥川賞候補、2011年、「まちなか」が第146回芥川賞候補。著書に『うちに帰ろう』(文藝春秋)、『清とこの夜』(中央公論新社)、『金貸しから物書きまで』(中公文庫)、『いつか来る季節』(桜山社)、『今日もうまい酒を飲んだ』(集英社文庫)など。



寝台特急の旅 乗客たちの人生模様

体験が本書には描き出されていって興味深い。
いまは長距離の旅行も飛行機が中心で、移動時間と便利さばかりに目が向く。だが、夜行列車や寝台列車を利用した旅には、ふんわりとしない独特の時間や体験があり、そこにさまざまなドラマも生まれる。本書が描いているのはそんな世界である。また、「北斗星」でいえば札幌が始発の上り列車に乗る場合、上野駅が始発の下り列車の場合では、旅の性格が微妙に異なる。そこ着目していることも面白さの一つだ。
著者は2010年に「うちに帰ろう」(芥川賞候補作)で出版デビューした愛知県岡崎市在住の作家。新境地は「北斗星」だったという。版元は名古屋の出版社で、編集を担当した江草三四朗代表もこの列車にはかかるとの思いが強いという。すると桜山社のホームページで述べている。さらに本書の装画は札幌在住のイラストレーター・鈴木周作氏。「北斗星」乗車456回の記録の著作があるなく、その愛情は他の追随を許さない。それぞれの「北斗星」に対する思いが詰まった一冊といえる。(中館寛隆・編集者)

2021年12月12日付「北海道新聞」

目次

- ・週末のサラリーマン
- ・美瑛市の夫婦
- ・上京する新社会人
- ・名古屋の新婚さん
- ・お婆さんの集団
- ・少年と父
- ・早期退職をしたお婆さん
- ・酪農家の跡取り



裏表紙:食堂車「グランジャリオ」では優雅なディナーが楽しめた



扉:上野駅13番線ホーム

好評既刊



四六判並製・296ページ
1,500+税
ISBN:978-4-908957-02-4
C0093

●判型:四六判並製 232ページ ●定価:本体1,500円+税 ●ISBN:978-4-908957-17-8 C0095

直取引代行
トランスビュー

桜山社の商品は、トランスビューの直接取引で納品いたします。直接取引の条件は、トランスビューの商品とすべて同じ(随時返品可)です。取次ルートの場合は、八木書店経由(買切・返品不可)になります。トランスビューとお取引がないお店からのご注文は、小社からご連絡いたします。1冊からお気軽にご注文ください。

FAX受付は 0120-999-660

貴店名			北斗星に乗って
			冊
			いつか来る季節
			冊
ご担当者様	月	日	冊